

ボランティア養成研修

ボランティア養成セミナー 兼 自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成事業

1 ねらい

独立行政法人国立青少年教育振興機構のボランティアとして一定レベルの資質を確保するとともに、青少年教育施設におけるボランティア活動を推進し、その活動機会の拡充を図るため、法人ボランティアの養成を行う。

2 期日

①令和元年5月25日(土)～26日(日)【1泊2日】

②令和元年6月22日(土)～23日(日)【1泊2日】

3 対象

15歳以上(高校生以上)

4 参加人数／募集人数

① 77名／50名

② 16名／20名

5 講師・スタッフ

富山国際大学 子ども育成学部 教授 村上 満 氏

富山国際大学 子ども育成学部 准教授 松山 友之 氏

公益財団法人キープ協会 環境教育事業部 主席研究員 増田 直広 氏

立山町立利田小学校 校長 深山 慶太 氏

立山町消防本部職員 国立立山青少年自然の家職員

6 後援・協力

後援：富山・石川・新潟各県教育委員会、富山県キャンプ協会、北日本新聞社

7 日程

	午 前	午 後	夜
5月25日(土) 1日目	開校式 ガイダンス 講義「ボランティア活動の意義」	講義「青少年教育」 講義・演習「自然体験活動の技術」 (野外ゲーム、野外炊事)	講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」 (先輩ボランティアの話) ※本館泊
5月26日(日) 2日目	実習「つどい体験」 講義・演習「普通救命救急法」	講義「青少年教育施設の現状と運営」 ボランティア制度について(説明)	

	午 前	午 後	夜
6月22日(土) 1日目		ガイダンス 講義・演習「自然体験活動の技術」	講義「対象者理解」 講義「安全管理」 ※本館泊
6月23日(日) 2日目	講義・演習「自然体験活動の特質」	講義・演習「自然体験活動の指導」 認定試験	

8 参加者からの感想

- なぜボランティアをするのかと考えた時に、「人のため」と思われがちだが、自分の成長のためであると改めて感じることができた。
- 午後の時間帯の講義だったが、ワーキングを交えた内容で集中力を保って学習できた。昔と今の子供の感性の違いなども、説得力があり、今後の子供への関わり方の参考になった。

9 成果

- 夜の活動ではキャンプファイヤーをやめたことによりゆとりが生まれ、諸手続きや受講者同士の交流の時間が生まれ、有効に時間を過ごすことができた。
- 広報活動では、先輩ボランティアの協力を仰いだ。新入生の前で体験談を語ってもらうことで、広報効果が高まり、受講者増につながった。

10 今後の課題

- 話し合い活動や演習が、スムーズに進められるように、受講者同士の人間関係づくりを主体とした活動を事業の始めに行う等、プログラム構成を工夫していく必要がある。

